助成番号 113461	5－2

研 究 成 果 報 告 書

（C･登録原稿）

研究テーマ（和文） AB	英国のセラフィールド原子力発電所に関する開示情報の考察				
研究テーマ（欧文） AZ	A Study on Information Disclosure in Relation to the Sellafield Nuclear Power Station in the UK				
研究代表者	ｶﾀｶﾅ CC	姓） マツダ	名） マユミ	研究期間 B	2011～ 2013年
	漢字 CB	松田	真由美	報告年度 YR	2013 年
	ﾛｰﾏ字 CZ	MATSUDA	Mayumi	研究機関名	公益財団法人政治経済研究所
研究代表者 CD 所属機関・職名	公益財団法人政治経済研究所･主任研究員				

概要 EA （600 字～800 字程度にまとめてください。）

英国は原子力発電を推進しているが､イングランド北西部には 1957 年に火災事故を起こしたウィンズケール原子炉、廃炉となった原子力発電所コールダーホール加えて使用済核燃料の処理工場等が密集する複合施設であるセラフィールドが存在する。その隣接地は新たな原発建設の候補地である。セラフィールドについてはこれまで放射能汚染およびそれに起因する健康リスクについて科学的見地より多くの研究が行われてきたが、情報開示についての研究はあまりないと言える。また福島第一原発事故に伴い、英国政府が原発についての安全性の追求および、公共とのコミュニケーションの必要性を提起していることから、世界初の原子炉火災事故が起こり半世紀が経過した英国において、セラフィールドについてこれまでどのような情報開示が行われてきたのか研究することが目的である。

調査の一環として、まずセラフィールドを訪れた。武装警官に守られている施設の現状を知るとともに、事故を起こした原子炉の撤去を含めた今後の計画、施設の安全管理システム、および情報開示方針等についての情報がインタビューを通じて得られた。中でもセラフィールドは中部電力からの使用済核燃料処理の委託を受けており、これまで日本との密接な関係を築いてきている。セラフィールドは日本の原発稼働計画を注視しており、稼働状況に応じてセラフィールドの計画が変更されるなど、日本への商業的依存が大きいことを理解した。

そして半世紀以上におよぶ政府、英国原子力公社、英国原子燃料会社等が開示した情報および英国主要紙をはじめ地方紙の記事を収集することにより、情報開示について検証した。

第一に焦点を当てたのは、1957 年の原子炉事故直後の情報である。当時は、軍事的理由によりセラフィールドの情報は機密情報として扱われていたが、30 年以上経過したことから公表されるに至り、研究を進めることができた。当時原発は国策であったためそれを頓挫させることを避ける意図があった政府は、事故の技術的報告は行うものの、汚染リスクへの言及は行わず、この事故によって重大な被害が国民やその財産に及ぶものではないこと、また事故周辺地域の牛乳の出荷停止は健康リスクが顕在化するというよりもむしろ予防措置であることを強調していた。ハロルド・マクミリアン首相は、汚染基準値を超えた牛乳が市場に出ている事実を知りながら、意図的に公表しなかったことも判明している。さらに、従業員は国家秘密法のもとにおかれ、情報漏えいを防いだ。これらの結果より、政府は原発を推進するために、放射能汚染および健康リスクおよびについての情報を積極的に開示しなかった事実が明らかになった。

現在も情報検証の過程にあるが、これまでの研究成果の一部として、2012 年「英国セラフィールドの調査報告」、2013 年「ウィンズケール火災事故直後の情報開示」を日本環境学会で報告しており、今後も成果を公表してゆく予定である。

キーワード FA	原子炉事故	情報開示		

（以下は記入しないでください。）

助成財団ｺｰﾄﾞ TA						研究課題番号 AA									
研究機関番号 AC						シート番号									

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題GB	英国セラフィールドの調査報告							
	著者名 GA	松田　真由美	雑誌名 GC	第 38 回日本環境学会予稿集					
	ページ GF	234 ～ 237	発行年 GE	2	0	1	2	巻号 GD	
雑誌	論文標題GB	ウィンズケール火災事故直後の情報開示							
	著者名 GA	松田　真由美	雑誌名 GC	第 39 回日本環境学会予稿集					
	ページ GF	135 ～ 137	発行年 GE	2	0	1	3	巻号 GD	
雑誌	論文標題GB								
	著者名 GA		雑誌名 GC						
	ページ GF	～	発行年 GE					巻号 GD	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 HB		発行年 HD					総ﾍﾟｰｼﾞ HE	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 HB		発行年 HD					総ﾍﾟｰｼﾞ HE	

欧文概要 EZ

Sellafield, situated in the north of England, is a nuclear facility which has evolved from origins as the center for producing nuclear weapon material for the UK. This facility currently consists of Windscale, a nuclear pile which was the site for a major nuclear accident in 1957s, Calder Hall, the original power generation plant and which is now being decommissioned, and a nuclear fuel processing complex with associated storage facilitates.Although there have been many studies covering health risks and contamination related to Sellafiled, there has been no studies looking at official information disclosure about Sellafield. The purpose of this study is to examine aspects such as the consistency, timeliness, and credibility of official information disclosure.

The method of this study began with a visit to Sellafield to tour the facility to view and learn firsthand about its history, current operation and policies pertaining to information disclosure. In addition much information published over a period of 50 years by the UK Government, the UK Atomic Energy Authority and British Nuclear Fuels Ltd, has been collected and analyzed.

The initial focus of the study was on information disclosed directly after the 1957 accident. Government reports at the time concluded that the impact to public health was not serious and a ban of sales of local milk was described as precautionary. This approach was likely due to the importance of the facility to national policies on nuclear energy at the time as well as its military importance. Employees were bound to secrecy by the Official Secrets Act and were not allowed to report any information. However, much information has now been declassified.

This study so far have been presented at two Japan Association on The Environmental Studies Conferences, in June 2012 and June 2013, under the titles "Report on the UK Sellafield " and "Information disclosure of Windscale fire immediately after the accident" respectively.